

DATA FILE



名 前	ANHYDRITE (アンハイドライト) / 硬石膏
化学組成	CaSO_4
色	無色、青色、紫色、褐色、灰色など
光 沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	完全
断 口	不平坦
硬 度	3.5
比 重	3.0

硬石膏 ANHYDRITE

劈開は三方向に完全で、ハンマーでたたくと不平坦な断口があらわれる。

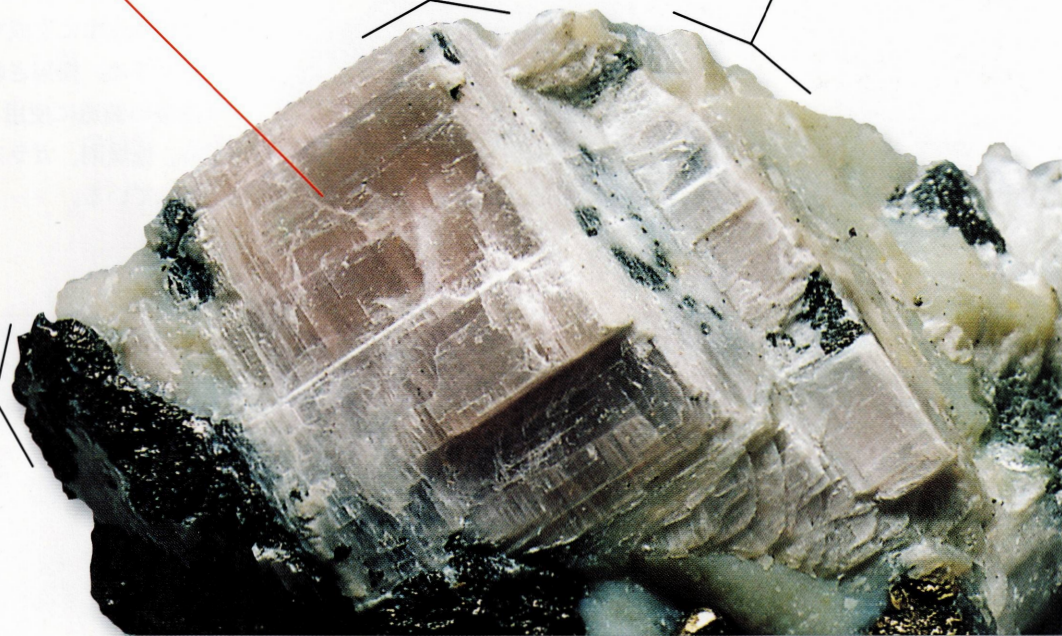
真珠光沢を示し、劈開の線が見える硬石膏。イタリア産。

石膏、苦灰石、石英、ぶどう石などと共生する。

素焼きの陶板にこすりつけると、白色の条痕が残る。

結晶を火にかざすと、赤みがかったオレンジ色の炎色反応を示す。

細かい粒状の結晶が密接に集まった塊で産することが多い。



水を含まない石膏

コ 硬石膏

化学組成上、石膏が $[\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}]$ で結晶水を2分子含んでいるのに対し、硬石膏は結晶水を含んでいない。そのため、英名の「アンハイドライト」は「水がない」という意味のギリシャ語を語源とし、和名は水を含まないため明らかに石膏より硬いことにちなんで「硬石膏」と名づけられた。ただし、湿気の多い場所では、大気中の水分を取り込んで石膏に変化するものも存在する。なお、外見は方解石と似ているが、硬石膏は塩酸にひたしても発泡しないことから判別可能。また、加熱すると簡単に溶け、火にかざすと赤みがかったオレンジ色の炎色反応を示すのも特徴だ。



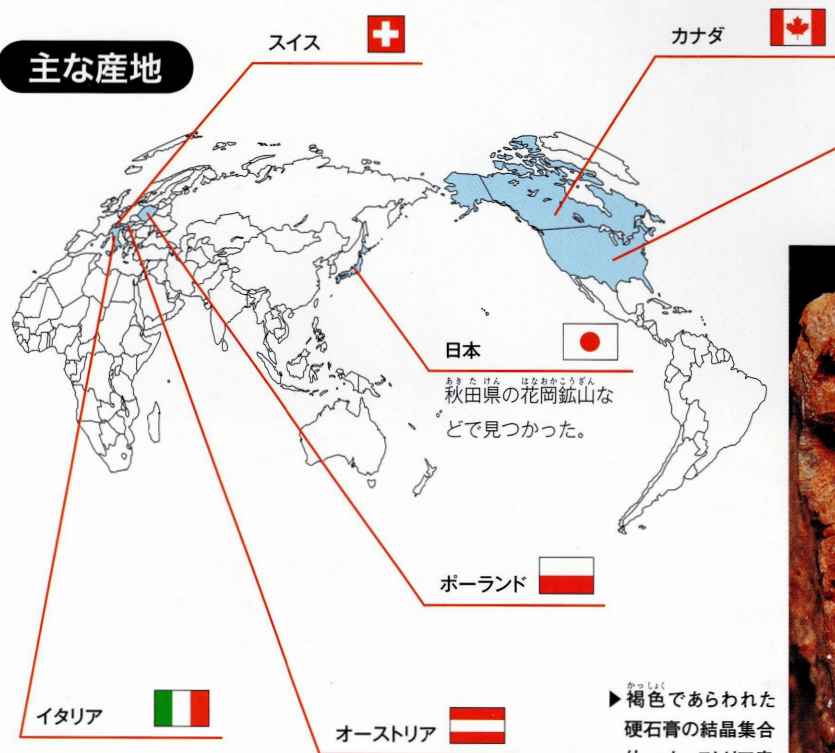
▲板状の結晶が集まって産した硬石膏。

▼硬石膏の無色透明結晶。

日本では黒鉱鉱床中に生成

世界的に見ると、硬石膏は水温が42℃以上になった海水に沈殿してできる蒸発鉱物のひとつだが、日本では、主に海底で噴出して層状に沈殿した黒鉱鉱床中に生成する。また、火山の噴気孔からも産する。採掘された硬石膏は、主にセメントや漆喰の製造に使用されるほか、医療用ギプス、肥料、乾燥剤、ガラス原料、塗料など、幅広く利用されている。

主な産地



▶褐色であらわれた硬石膏の結晶集合体。オーストリア産。